孫會見所志

へ遠13
2475
30

へ函13
2475
30

茶道家

一

古記伝記

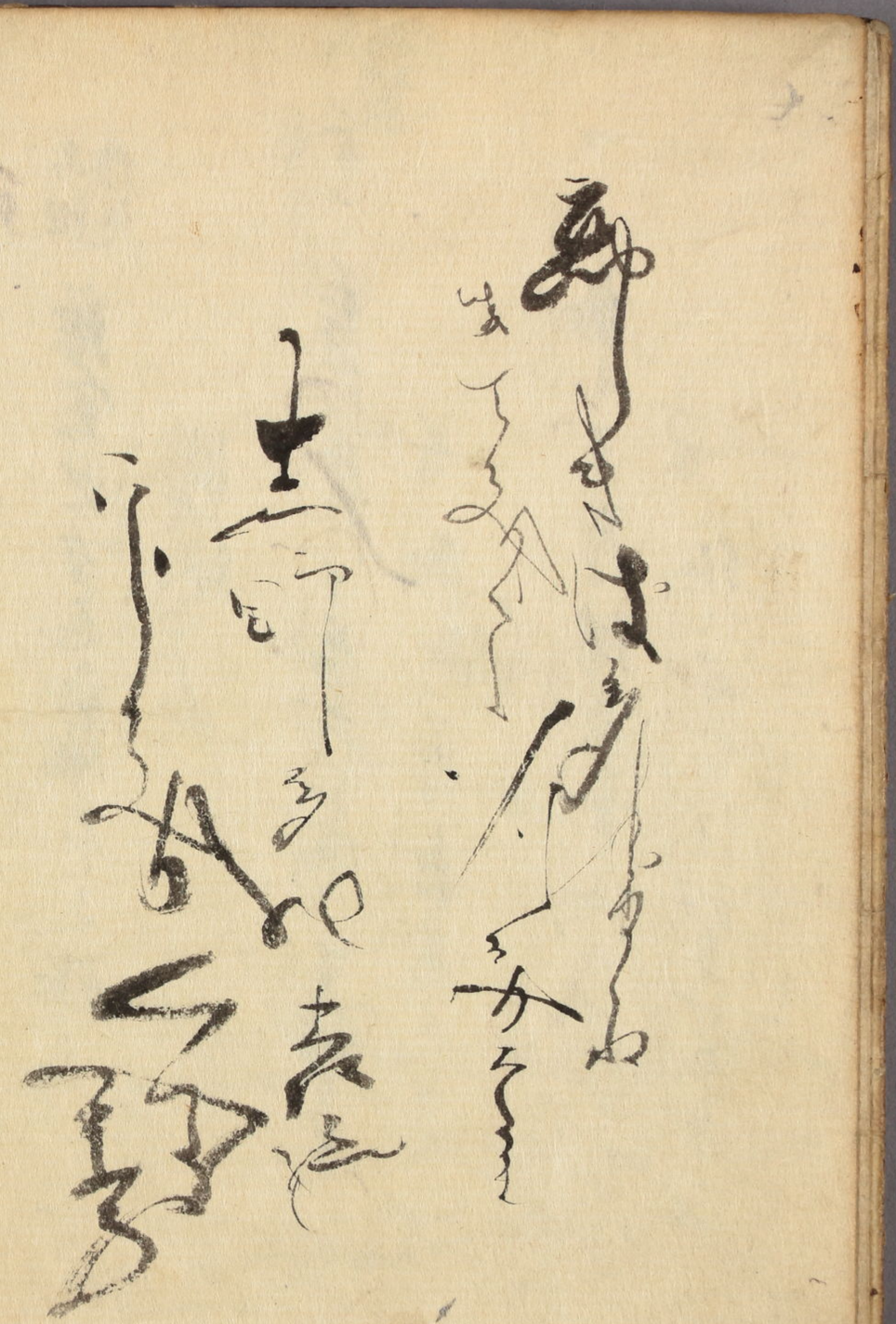
雲家人夫志之部

目録

古所花伝 茶湯生花之事
茶湯口伝 自言の事

一

茶湯小三帝 雲夫筆湯の事
茶 伝来登録記之事



結句　降雪見雪の志部倫者之格

吉野の瀧と使ふ歌を摘句

茶　瀧　巳百部自言の変

雪をのみを爲はの瀧つの瀧

雪ことさんうみの言いのぶを通みる

玉通の通ふのなへなると巳百部義

雪とうのみ雪集の義を

かくもかんして観念所望し往生

ミ新参をもへりしども小姓が寺律藤

さま京都を退去し外頭子吸

得だするし吉野山にかけりて大原を

このみ於高野と遊げんして志をまじりんの

出家すも役が夏子丈夫の不孝ま

わかだ足もふ夫ゟ天下の事を知り

星の住まゆる所らん一心の誦経ら

出家を勝せんぐらせん修道して於高野

と遊げさせ申さんて清行体悟させし

せん生捕手せんてあわひしくば出家

をやし判慢やせんむるのを楽ぐさ於高野を

とぶゆらし体悟をさーして申ゆる紀州

誦経の照修行して術の秘事て

わるところをかうせんいふしてもなる

なりたりし入道させてかうせん受て

はらんとせしはひかる其中より花僧
壱人ゑみをふくみ仏家をさゝげて参事
に捧ぐ件の経をらんと計略めぐらし
仏家破らんとせしは送らんとす仰牟く
はるべしとてしれ従者に其をうたし万一
然聖みとを生へりど悟惚をもてさ
はるまじく思ふ誰が命のごとくに
仏家とかし生補る一しやうみだく

聞て群鳥を見たり其ぞて生類が仏に
まかりしいふは濁世に於て地今
仏家をせしはまんでてくだん生類が
いふに大丈夫の一念ぞつきまはらくに
異しき出家をとおつさなしと悪念
うつりにおもひとくしやりたる中へ独つて
まて旅往く離散して錦郷へ
儀式をとくのつ長く墓をたつる

慈尊(じそん)のくだりしまへりける授戒(じゆかい)法会(ほうゑ)消(せう)
日の御法(みのり)ありきと今宵(こよひ)は仏(ぶつ)よく修(しゆ)学(がく)
まづ一さい衆生(しゆじやう)を見(み)しんは菩薩(ぼさつ)たちもきそひ来(き)て
今こそ勧(くわん)化(け)の縁(えん)をしかりとて何(なに)の事(こと)かは
みなもおよばざりしてお家(け)に力(ちから)を色(しき)蕃(?)之
とて在俗(ざいぞく)是を請(しやう)用(よう)(?)菊(きく)にありて
今こそ仏母(ぶつも)ましまして縁(えん)に随(ずい)縁(えん)の機(き)を
どしまへし悦(よろこ)び仏母(ぶつも)へまへし納受(なうじゆ)ふ歓(くわん)喜(き)

生捕(いけどり)の用心(ようじん)をいたしける長(をさ)蔵(ざう)殿(どの)とも
売(う)つた(?)尼(あま)のごとくお家(け)して仏法(ぶつぽう)の(?)
其夜(そのよ)を坊中(ばうちう)に休息(きうそく)しけるが夢(ゆめ)
の仏前(ぶつぜん)にまいりていて霊(れい)の法(ほう)をきゝける
すや生身(しやうじん)とあらく座(ざ)たうらし四人の在俗(ざいぞく)
を隠(?)の別当(べつたう)に休息(きうそく)しは修行(しゆぎやう)の成仏(じやうぶつ)
をよしみし一心に統(?)させる荒法師(あらほうし)とも
大(だい)鎮(?)称(しやう)生捕(いけどり)られて年(ねん)ひさしかりし魂(たましひ)一(?)も

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
の[illegible]を[illegible]て[illegible]隆[illegible]て[illegible]を
[illegible]ぶ[illegible][illegible]からん[illegible][illegible]して生[illegible]
人一[illegible]の[illegible]を[illegible]ん[illegible]
と[illegible]て[illegible]て[illegible]ざる[illegible]
[illegible]の[illegible]師[illegible]人[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]一[illegible]の[illegible]
[illegible]が[illegible]を[illegible]

[illegible]人[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]士[illegible]
[illegible]
[illegible]

眼みてに[illegible]
く生補まるうを[illegible]
ふ板ひ引ニら生[illegible]
侍ふ一旦古[illegible]
板兼法師の[illegible]
法師ハ[illegible]
ニ一[illegible]の[illegible]
引[illegible]

一[illegible]して腹かんてき[illegible]
[illegible]
[illegible]歯をひたてと眉を逆立
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

面白き事ども先年聞伝へ
旬編年類聚ともいはんか
ぐまでその動揺の
ものなく変りざるは王命之
面白き事ども少体なる
まのうらと家を事ども西さ
ん及遠動の羅のうまを
刺部と遠さも物ひ
へ

表宮のかたちの一二ヶ
とりてもるんドがうつ
なかなかのうの刺
刺部と遠ぎるうちい
ドうつ長形の刺者
近自業自得とうの
命のかたちよりう物
ても表をかのうで

毒て三界には忍辱(?)をこらし一せん
かんたかりしまよふやく寂化(?)かくしく大衆(?)
此太刀そでにかまへと安しどこをもの一云
鄭(?)に天下の命のはきまのをとらわりけれ
上古を思ふもう一つまに力にまかせ
けうかくて可ゆしきのもつき多を力と
勇士の面目に砂原(?)の事一かりとさぬ
此らろ此名也に前る今鬼(?)伯なる

ひ殺(?)人へらせさまん足(?)天代の御事
ゆとうぶけちるのありひくましても許
医師の所とかりて小者は命のおしき
に右家と逆生神(?)して諸士の仰せ
くまんとて聖(?)をしきを無為ありけん慈悲
我首をうちて京都へおくりまさよ殊に
は成仏をえし支ても足株(?)許(?)とおくりを
すそ魂魄は海にいかうと思魔(?)鬼なと

りて昭報を一大丈夫の男子
朝の一句い書つこ[illegible]
班固言ふ乃ちトセーこ[illegible]
義が富貴と信ずるこ[illegible]
が匠師の所作を[illegible]
べきを計てあさ[illegible]
皆父の[illegible]
[illegible]とあるこ[illegible]

り出ずこ匠師の[illegible]
トさん[illegible]
トのこ[illegible]
博士言い武士の[illegible]
こんで[illegible]
[illegible]
とセーこ[illegible]
[illegible]

是い祈ぶ所のさわりをひく〳〵まぢかの蛇色
みうるゝ〜所後の望隆をたしまず
くさと、ゝ所をみ一ゝ面〳〵立ち立
ゝと祈角をうる以年矢とをとるる
ゝ敵ゝ敵よりかさくうる乃敵の力
祈所ゝ〜てゝくゝ長義死悦
きうるゝ流刑ゝ勝俗ゝとゝ
俗をゝのもと敵の毒なゝくゝを

敵ゝゝゝゝくゝ前ゝ敵ゝゝ前
死ゝくゝをゝ敵ゝゝゝゝ信
〜前と京紀〜ゝゝ長義先等
強ゝらゝゝ勅刑ゝ彼ゝ男強式
ゝゝゝゝ命ゝゝゝ主ゝ文ゝゝ
力の俗ゝゝゝゝ祈ゝゝ
彼力ゝ望ゝゝゝ上信ゝ主ゝ文
祈ゝゝ考ゝゝゝゝゝ祈

京都より長崎へ少くへきびしく強盗
の所よ吉野山へと長崎へ送り
しを聞と云こと也 浦賀の長崎
くれしくい親佐ものすしと長崎の
なりひとをしーとをかの前を牧つる
を石のすし 鍋蓋へ流るに流るる
波が一張小沢市郎兵衛三郎兵衛
長崎へゆくへ知まさしに成るに

京都より長崎へ出ども長崎計
しとと少弟会我とすし計也せん
と新発意をひたすら法中へ申しもん
とう命して海水の傍より陸へ
河をのぼりと小ヒ屋の附相正仁
ふ木小を帰廣湯吉四郎氏して海水
よりいろ探しそんりう長崎
ふ叶とぐらとたいぐく

清水侍にをゐて合戦し五人ともに
討死しける是によりて重病中によく
静謐におよび然に強実へ渡りたに

瑩筆洲したる文

并作之本瑩居討りと云所之文

家子郎党並使人洲小右衛門瑩は殺と
又の若輩の人々によりし謀叛をくわだ

て寅にて擒けられし平氏の残党摂原
か全類とも誅されしに折節の忠ん
魂としてさ流されし其の男子弟孫
とかられしにぞ瑩ちる悦び座とも
人ぞしおりつところに若輩子迎びし
忍び返しのなきくらうも若輩と眼
然一類ことく誅せしよし告られど
瑩ちつきによりさるき程石と數みし

[illegible]すて[illegible]
よかとおもうーーーちき
[illegible]
ども[illegible]報のいろを[illegible]
を[illegible]人のえらぶ[illegible]
[illegible]を一[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]と[illegible]
[illegible]方のもがぐよ[illegible]もとり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しかれを後悔をかへりみせし業
は逆意を企るをみて殿に注進
に浪人となつて逆意をもくろみの初
たゞ一日なりとも飯食をかなへし去候
討死せんとおもふところに城中に止まると
和泉のとのがくミ子筆写望画に寵
謀ーしける処に天いげける工いまさらよ
しき事しかるに伊藤城中のかぎんく

忠節とおもふしもかくいる花に露をおき
たし頼家とのは当家をほしたうんと
多年の城を去ると一てしる死を侯ん
とけるんしかれを討もていふめまで
し称して変化して返ひける也へ参して
もしに城軍して討るしその名をし
今は近年のかんみちくるまおもくだ
城をはよし候んかれをおさめしよし運案

一　逐臣となりて後様の嵩を汀し
ちへ乎ち謫るかとひかん北付謹慎を
いたして摂州須磨京都に乱入
し仁和に挑みし[illegible]の計りあり
院宣と先非をそこの逐臣をもしもる
よりと謹慎の[illegible]平将を以て
ありてよし評定のところ京都の花
都へ参りして長門京都を遁れし

しるよりし上官の軍将をともにうちとしと
いへども安徳の井かつひかし給うに二月
二日の夜引きまくて長門赤間山
まて自害のよし逐臣をうちまくり謫
余ありし人々をもとより[illegible]に
まこ四日二日[illegible]後日のあやとして
寄して摂州[illegible]多[illegible]の摂都を楯
られし諸臣の非器(?)にうちとし近臣の

の三郎入道ハ殊しん心師匠へ一でも懈怠
なくして書手学問所にあるよ
びんやく注進しかれど講釈中さく
そのきさがしくある時なる也
此ず主井筒にハいかけし此法をよ
しかし此事を江守十頭大内殿の
府第盤北崎太石忍保て継
の浄延かしける首州世上禅ありて

月名三つき時の候五陰寒の勇士
とふ俗へいふは日数のうちに詠て
の浄ハ三国のともがらく命じ仰候
さしもるとのなみて誰とか命せらる
べきや此浄延をしるよ越後俗宗郎中
のうちよ能其つき習すなし其日
是盤が澄盤が嫌郎ニたとも
宮崎の都けり代越後嫌ひた

[illegible]地利と[illegible]氏と
[illegible]思と[illegible]みぐるしい責
[illegible]の[illegible]
死の[illegible]十二万の軍勢と[illegible]の[illegible]十二の[illegible]
[illegible]
[illegible]天命を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]とおもうて[illegible]
[illegible]人[illegible]のうれわ
[illegible]
[illegible]の武
威の[illegible]
[illegible]の中よ
[illegible]の作[illegible]
面[illegible]と[illegible]早[illegible]
[illegible]
[illegible]

だるの、はなをもつて、ぜんぜんとして、
くが、ぜんぜんがことへ、ちをのうりうし、
ぜんぜんして、竜撥をより、伝平の
人を率、不日よ、諸所、体をぜーと
命ずるふ、新兵衛、里長の親をとてん
上、与平、重次、のべ、ぜんぜんが、鎧をきし
て、ぐぐりるるるぐく、人目よい、波ふる
ぜー、作ふ、ぜんが、主よ、ふるとふるる

和をふ、用ひて、作ぜーが、今、内、
の、ぜんぜんして、諸、ふとの、名、里長
の、ふるふを、ふて、ぜんぜん、ふるつ、ふる
て、ふを、ぜんぜん、ふる、新兵衛、
ぜんぜんを、ふ、ぜーとの、ふりし、和、
新兵を、懐中、毎、ぜんぜん、ふ、ふしよ
つ、ふるよ、何、ぜんと、つの、侍よ、ふる、ふの
新、ふを、ふを、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ

ども謀よりはじめさいしよて讒臣
をまへ讒侫して忠賢を讒言し多く
みて一度はゆるされ二度はいくたび逐し
讒侫の謀を歌なして奸悪をまて
是とよみうちつもいくたび其身池に沈め
忠良のたるを似はれども白命の主きき
独まもる君臣之ととんてうして謹也
逆し我とこさ登渡が郎ども

魂んの路しとみえおどろき初めて王
としとうけ悲もかしこく獄舎
りけれど都を乞として魚島しのぶ
ぞや古語の諺を今ぜられしそめん
み御座の男女ともおもしきたて其身をあわ
ちらし誹謗の佞悪なりけるべし讒
ありとしだんらきの忠勇をとらてし
あくうし世に讒言りけれ以て万代まで

我かたし年来くるといふ事をわらんに
いそぎ此息のうつすひまづきや重
陽に並ありしに主命のおもき代家
もあらずかへり生滞まづき申すみし職い
張信の出家にわたり何程も存じて見患
ちくつき天文年中学の修行書画す
て講釈ありしとき公治氏初心大文
とをはかし見付候しと存じらる也

宿所ふれわたりて勝手もろひしか此葉
わすれしと質をしりとゞふし第問して
類とふとゆふもるの留河節子なりて
師付る公気に官士の喜公をわた
て宣とに特府首の事ならを撰て
ゑはたららと訓まと敬ひらと暫付と行
様の所手わたにやりわを敵へふての
弟宮をらんじてゞだまくいまるさく

ら人沼[illegible]を[illegible]
新蔵一[illegible]
保逗中[illegible]伊州[illegible]人[illegible]
のものを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新蔵星[illegible]六日の[illegible]
[illegible]日の未の刻[illegible]の[illegible]
[illegible]
保逗中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まのあたりとなりて而後が男義ふ
振舞ことなるのごとく——悪鬼と称
するつよの叫びよりて生ずふ
ものなりと義命に屈して性強なる
つよきばかり——去程彼のごとくなる
諸軍勢の陣中いまみまくに勝利の
ありしと彼が強勇ならや智恵
が虎ふりと雖後世に真の武士とい

もらくるうち真所のはかくまい
つくの男士夫もしらぬこと而後不
行を可しと——遊りよ彼手にふ
織後遥後の男くとの二のくと取置や
まらくらり刑

陸奥 藤宗丹家の志武備之教